

BankART school

2018年2月-3月期 募集要項



school

バンカースクールは、横浜・馬車道に残る歴史的建造物を芸術文化に活用したBankART1929のプログラムのひとつとして、2004年4月に開校しました。バンカースクールの守備範囲は美術・演劇・写真・建築・音楽・ダンスなどアート全般におよび、講師は各ジャンルの第一線で活躍する人たちばかり。子供向けのワークショップから専門性の高い講座までレベルはさまざまですが、いずれも少人数制で、講師と受講者同士の親密な交流を重視する現代の寺子屋をめざしています。

バンカースクールは日曜を除くほぼ毎日、休み無く開講しています。この13年もの間で講座286、述べ882人の講師の方々をお招きしました。受講生は4歳のおじょうちゃんから85歳のおじいちゃんまで、述べ4500人をこえます。ぶっちゃけ話、これらの講座をうけたところで即戦力にはならないし、なにか資格が得られるわけでもありません。受けるだけではなんの役にも立たないのです。むしろここから自分たちでなにを立ち上げていくのか、それが問われているのです。

バンカースクール校長 村田 真

月 mon. 19:30-21:30

「横浜建築家列伝 vol.4」

五十嵐太郎 + 磯 達雄

①2/5 ②2/12 ③2/19 ④2/26

⑤3/5 ⑥3/12 ⑦3/19 ⑧3/26



この講座は先進的な都市デザインを生み出し続けてきた横浜が、どのような建築家や計画者によって築かれてきたのか、その歴史と将来を考えるインタビュー・シリーズの4回目です。戦後の都市復興を担った行政建築家から、現在の先端的な建築アクティビストまで、幅広く探り上げます。現地見学会も1〜2回、予定しています。

いがらし・たろう | 建築史、建築批評家。1967年パリ生まれ。東北大学教授。主な著書に『被災地を歩きながら考えたこと』（みすず書房）『現代建築に関する16章』（講談社）などがある。

いそ・たつお | 建築ジャーナリスト。1963年埼玉県生まれ。1988〜99年『日経アーキテクチャ』編集部。2000年〜ブリックススタジオ共同主宰。共著書に『昭和モダン建築巡礼』（日経BP社）、『日本遺産巡礼』（同）などがある。

火 tue. 19:30-21:30

「美術館の読み方、楽しみ方2

全国編」

村田 真 + 和田菜穂子

①2/6 ②2/13 ③2/20 ④2/27

⑤3/6 ⑥3/13 ⑦3/20 ⑧3/27



前回、東京と神奈川の美術館を対象にした同講座、今回は対象を日本全国に広げて、その成り立ち、建築、コレクション、展覧会などの観点から美術館を読み解き、その楽しみ方をお伝えします。

【取り上げる予定の美術館】せんだいメディアテーク、水戸芸術館、山梨県立美術館、豊田市美術館、富山県美術館、金沢21世紀美術館、ミホミュージアム、国立民族学博物館、大塚国際美術館、ベネッセアートサイト直島、大原美術館、広島市現代美術館など計30館以上

むらた・まこと | 美術ジャーナリスト、画家。東京造形大学、慶応義塾大学、実践女子大学非常勤講師、BankARTスクール校長も務める。朝日新聞、北海道新聞、ウェブマガジン「アートスコープ」などに執筆。主な著書に「アートのみかた」、編書に「いかに戦争は描かれたか」（どちらもBankART1929）など。

わだ・なほこ | 一般社団法人東京建築アクセスポイント代表理事、慶応義塾大学非常勤講師。神奈川県立近代美術館、コペンハーゲン大学などに勤務。建築やアートの分野を横断し、キュレーションやアートマネジメントの活動を行う。主な著書に『北欧モダンハウス』（学芸出版社）、『北欧建築紀行』（山川出版社）など。

水 wed. 19:30-21:30

「写真について」

新井 卓、飯沢耕太郎、

檜橋朝子、佐藤時啓、

倉石信乃、小山穂太郎

①2/7 ②2/14 ③2/21 ④2/28

⑤3/7 ⑥3/14 ⑦3/21 ⑧3/28



新井 卓



飯沢耕太郎



檜橋朝子



佐藤時啓



倉石信乃



小山穂太郎

主にこれまでBankARスクールや写真展に関わってくれた写真評論家と写真家からなるリレー講座。

①2/7 新井 卓

②2/14 飯沢耕太郎

③2/21 檜橋朝子

④2/28 佐藤時啓

⑤3/7 飯沢耕太郎

⑥3/14 倉石信乃

⑦3/21 倉石信乃

⑧3/28 小山穂太郎

木 thu. 19:30-21:30

「見ることの誘惑

—山田正亮と『日本の現代美術』—

早見 亮

①2/1 ②2/8 ③2/15 ④2/22

⑤3/1 ⑥3/8 ⑦3/15 ⑧3/22



近年、大回顧展が開催された山田正亮（1930-2010）。絵画制作の変遷がそのまま「なにが絵画なのか」をわかりやすく提示している。40歳代後半で初めて適正な評価を受けた山田。それは「作り手」と「受け手」の関係、つまり作品を「見る」ことや「わかる」ことの問題でもある。このあたりを踏まえて「見る」とはどういう経験なのかを考えながら、山田の作品展開にそって最近の美術の問題を「わかる」糸口を探る。

はやみ・たかし | 1945年生まれ。美術評論。1960年代半ばから現代美術の現場を目撃。1970年代半ば以後評論活動。見ることと感覚的な経験、人の感じ方を支配する見えないなにかについて考える。パリ・ピエンナレ展日本コミッショナーや横浜市民ギャラリー「今日の作家」展、文房堂ギャラリー「アザー・センシビリティ展」などで企画。「山田正亮作品集」での「絵画を生む絵画」ほか山田関連の評論20点以上。

金 fri. 19:30-21:30

「トランプのアメリカとブルース」

鈴木啓志

①2/9 ②2/16 ③2/23 ④3/2

⑤3/9 ⑥3/16 ⑦3/23 ⑧3/30



トランプは就任以来様々な物議をかもしました。アメリカ第一主義を掲げ、世界のグローバル化に背を向けようとしています。また人種差別的な発言も繰り返しました。とはいえ、彼はグローバル化という当然の流れにひとつの問題を投げかけました。そこで改めてブルースを考えようとする、その歴史はグローバル化の歴史であったと言い換えることができます。すなわち南部のほんの狭い地区で生まれたブルースがまず多くの黒人の心を掴み、全国に広がっていく中で、南部の貧しい白人やジャズ・ビートルの共感を呼び、さらに戦後にはロックンロールを生む原動力ともなりました。そのグローバル化は更に進み、イギリスのストーンズやビートルズの出現、さらには日本にまで進出していきます。つまり、ブルースの歴史とはグローバル化の歴史にほかならない。だがそこに問題はなかったか、ブルースを通して改めてグローバル化の功罪を考えます。

すずき・ひろし | 黒人音楽の魅力に取りつかれてから半世紀。大学時代に始めたブルース愛好会がきっかけとなり、執筆やレコード・コンサートの企画を始め、その後音楽評論やブルースの紹介に多くを当ててきた。主な編著書に、『新版 R&B / ソウルの世界』（ミュージックマガジン）、『US Black Disk Guide』（スペースシャワーネットワーク）、『ブルース世界地図』（晶文社）など。ライナーは1000、企画したアルバムの数は300以上。

BankARTschool

BankARTスクールの概要

週1回、2ヶ月間で全8回。定員は20名程度。

時間 = 19:30〜21:30

会場 = BankART Studio NYKにて

スクール受講生の特典

受講生には学生証を発行します。また、BankARTショップでの買い物に5%割引、BankARTパブおよびカフェの1,000円チケットが10%割引となります。

お申し込み方法

①受講したい講座名 ②お名前 ③ご住所 ④電話番号 ⑤メールアドレスを、メール・FAX・電話のいずれかにてお知らせください。その際に受講料の振込先をお知らせいたします。1講座15,000円（税込）。はじめての方は入学金3,000円（税込）も一緒にお支払いいただきます。入金が確認でき次第、手続き完了となります。一旦納入された受講料は返金できませんのでご了承ください。

また、講座によっては別途材料費や資料代がかかる場合があります。申し込み受付は定員になり次第、終了させていただきます。

お申し込み・お問い合わせ

BankARTスクール事務局

school@bankart1929.com

TEL 045-663-2812 FAX 045-663-2813

BankART Studio NYK

〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9